令和５年度　小中野小学校　学校だより　第２号　　令和５年４月２８日

# ちぐさ咲く　みち

スズラン

## 子どもは，つまずきながら成長する

校 長　花 生　典 幸

ごく当たり前のことですが，どの親も，自分の子どもがきちんとした行動や生活が立派にできる人間になってほしいと願っています。そして，どの親にも，わが子はこうなってほしいという“理想像”があり，子どもをしつけたり，いろいろ教えたり，要求したりしています。親のそういう〈期待〉と〈要求〉の間で，子どもは育っているといっても過言ではありません。

ところが，最近の傾向として，わが子の失敗に我慢できなくて，すぐに口を出したり，きちんとした行動や態度のみを常に要求したりといった親が増えてきていると言われます。また，子どもが失敗するようなことは最初からやらせなかったり，逆に大変だからとみんな親がやってあげたりするといったことも多々見られるようです。

たとえば，子どもが「料理をつくりたい」と言った時 ……

包丁で切るのは危ないし，切っても無駄ばかりするし，火を使うのは危ないし，遅いし，後始末は上手にできないはずだし …… そんなのだったら親がやった方がよいということで，最後には「料理なんてやらなくていいから。あなたは勉強しなさい」……。

大人や親の立場で見ると，子どもが行う行動や生活は，なにごとも不完全で危ないようなことばかりに映ります。結果も，幼稚で不満足な点ばかり目に入るでしょう。子どもは，親の期待と要求からはるかにかけ離れたことをしているようにも見えたりします。

しかし，よくよく考えてみると，**子どもが歩くのを覚えたのは，つまずき，倒れる，を何千回もくりかえし，その失敗体験と試行錯誤を積み重ねてきた**からなのです。つまずきがなくて，歩けるようになった人は，一人もいないはずです。自転車に乗れたのも，鉄棒ができるようになったのも同じです。すべての日常のふるまいや行動，勉強や運動，また悲しみや苦しみや困難を乗り切ることについても同様でしょう。

大切なことは，**親が子どもを見守る姿勢**だとわたしは思います。「無理しなくてもいいから」「そんなことはやらなくていいから」「その程度のことしかできないの？」「やっぱり，だめだったわね」……言うことは簡単です。言うことは，見守るよりもずっと楽だからです。けれども，**見守り，励ますという我慢が親にないと，そういう姿勢と覚悟をもってやらせてみないと，子どもは学んだり，成長したりはできない**のではないでしょうか。

**つまずき，間違いながら，子どもは少しずつ成長していく**のです。**つまずきを見守り，生かすということを，わたしたち大人はもっと大切にしたい**ものです。